

5-4. 平成20年度新任者教育講座を終えて

株式会社ユーベック

中井 広樹



今回の研修を終えて一番印象に残っていることは環境計量という仕事の難しさだと思います。現在の地球環境の状態を知ることが、これからの地球環境を守るために大切なことですが、その環境の状態を知ることがこれほど難しいことだとは、今までは意識していませんでした。例えば、河川の水質を分析するときを考えてみると、河川の水の状態は川の両端で全く同じとは限らないし、天候によっても左右されます。そういった一定でないものを知ることが本当に難しいものだと思います。分析の正確さも大切だけれど、知りたい場所を最もよく示している試料をサンプリングすることが、いかに大切かということを実感しました。環境計量という仕事は、環境問題に取り組むための原点となっている重要な仕事であるし、環境分析の対象である試料が正しいものでなければ、環境問題にうまく取り組んでいくことができなくなると思うので、サンプリング一つをとってもしっかりとしていかなければならないと思いました。

正しいサンプリングが行われれば、次に大切な作業として分析があります。分析は分析機器を使用して行いますが、分析機器の使い方をさえ分かればだれでもできる作業です。しかし、今回の研修で分析機器をただ使えるだけでなく、それぞれの分析機器の特徴や原理を知っていることが重要だとわかりました。学生のときには考えたことはなかったけれど、今後はまず自分が使う分機器をはじめとして、なぜこの分析機器が選ばれたのかということや、試料の前処理では試薬を加えることでどのようなことが起こっているのかということまで理解できるようにしっかりと勉強していきたいと思いました。

今後、一人前の分析者になるためには勉強をすることはもちろんですが、いろんな環境をもっとよく知ることが大切なことだと思います。それゆえ、この研修で学んだことを忘れずに、これから先、いろんな現場で経験することをひとつひとつしっかりと身につけていくとともに、ひとつのことに集中するだけでなく幅広い知識を身につけることで、これからの地球環境のために働くことのできる分析屋になりたいと思います。

以上